

# 懇話会 2023年第2回

企画委員会

NHK大河ドラマの「どうする家康」もいよいよ佳境に入ってきましたが、家康の一生は一体どんなだったかについては皆さん大変興味があります。第2回懇話会のテーマはその「徳川家康の一生」でした。

家康が誕生してからこの世を去るまでの史実を、年齢が進む順での紹介は家康の人生でのつながりがよくわかりました。信長は家康の8歳年上で50歳の折本能寺の変での死、秀吉は家康の5歳年上で62歳で病死、そしてその家康はなんと75歳の生涯を全うしました。当時としては異例の長寿が、家康を天下人に押し上げ260年の幕府の礎を創り上げたとの紹介は納得でした。家康は健康に日頃から留意し、死を迎える数か月前迄鷹狩りをしていたとはまさに健康寿命のお手本でした。

講師は寺社マイスターのYさんで、昨年の「鎌倉殿の13人」の題目に引き続き歴史のお話の第3弾でした。今回も魅力あるお話ぶりで、出席者一同興味津々拝聴しました。

日時：令和5年11月22日（水）13:30～16:00  
場所：東京ボランティア市民活動センターA会議室  
（JR飯田橋駅隣接セントラルプラザ10階）  
参加費：300円  
参加者：15名（講師を含まず）

13:30 開催挨拶 理事長

13:35 講演「家康の一生 その注目の歴史」

講師 寺社マイスター Y氏

講師からは、既に2回懇話会でお話いただき、ユニークと軽妙なトークは大好評でした。出席者と対話をしながら進める講演は、会場と一体となり楽しく有益な時間を過ごしていました。

講師は、現役時代YA会員やYO会員と同じ会社にお勤めでした。京都の寺社に関するマイスター試験2級の資格者です。

## ■軽妙なお話の始まり 名古屋の有名な食べ物は？

講師の問いかけに、皆さんいろいろと答えていました。ういろう、きしめん、おぐらトースト、名古屋コーチン、ひつまぶし、どて煮、みそカツ、みそおでん、エビフライなどなど。

みそと言えば八丁味噌。岡崎城から八丁（870m）の距離にあるので「八丁味噌」とのこと。その岡崎が家康のふるさとです。

## ■幼少の頃は「今川」と「織田」の人質

家康は1542年12月26日午前4時頃に岡崎城で誕生。父親は松平広忠（17歳）、母親は水野家の於大の方（15歳）で、幼名は「竹千代」でした。東に「今川義元」、西に「織田信秀」と強敵にかこまれており、いつ攻め込まれてもおかしくない緊迫した状況であったので、「織田家」と「今川家」の人質として不遇な若年



徳川家康

時代を送っていました。家康は信長の8歳年下ですが、この人質の時期に二人は交流がありました。

## ■桶狭間の戦い～長篠の戦い

### ～本能寺の変～秀吉の死

家康19歳の時の桶狭間の戦いで、今川義元が斃れ、家康は岡崎に入って織田家の傘下の松平家康となりました。そして、三河を統一したことから、朝廷より従三位三河守に叙任されました。

苗字については、家康の遠祖は新田氏で、そのゆかりの土地の新田郡世良田村徳川から名をとり「徳川」とし、以後「徳川」が続きました。

1582年の本能寺の変で信長が死にました。家康が41歳の時でしたが、その時堺に居ました。家康の手勢は非常に少なかったものの、服部半蔵のおかげで伊賀経由で三河に何とか戻れたという状況でした。



豊臣秀吉

秀吉が高松城から驚異的な速さで引き返し、明智光秀を撃ったことで秀吉が権力を振るうようになりました。家康は当初秀吉の支配を拒みながらも最終的には秀吉に対して完全に臣従を受け入れました。

1598年に秀吉が病死しました。家康は五大老筆頭として勢力を増し1600年の関ヶ原の戦いで石田光成の西軍を破り江戸幕府を開きました。

1603年までの3年間江戸に滞在、家康は五街道などインフラ整備を行っています。

### ■そして大阪冬の陣、夏の陣

冬の陣と夏の陣のどちらが先かというクイズを、講師から出ました。クイズがあるとつい話に引き込まれてしまいます。実はそれほど間をあけることはなく、冬の陣が終わった翌年に夏の陣だったとのことでした。

秀吉が奈良より大きい大仏殿を建てようとした京都方広寺の鐘の文字、「国家安康」「君臣豊楽」が家康の二字を分断して、徳川家を冒涇するものと難癖をつけ冬の陣が始まりました。このいわくつきの鐘は、現在も三十三間堂近くの方広寺にあるとのこと。



国家安康  
君臣豊楽

### ■講演の締めくくり 三人の英傑を象徴する辞から

三人の英傑を象徴する俳句の披露がありました。

信長「鳴かぬなら殺してしまえ時鳥」

秀吉「鳴かぬなら鳴かせてみしょう時鳥」

家康「鳴かぬなら鳴くまで待とう時鳥」

信長が50歳、秀吉が62歳までだったのに比べて、家康は75歳まで長生きしたことが結局、実を結んだと言えます。

そして、今日世界中で戦いが絶えない状況ですが、260年という長い間戦いの無い時代を築けたことは実に資するところ大であったと思います。

以上興味が尽きないお話の主要な事項ですが、講師の蘊蓄の奥行を示すお話が多々ありましたので、以下にかい摘んで掲載します。

### ■家康の年譜 年齢は数え年

1543 天文 11 年家康誕生 幼名竹千代

信長の 8 歳下 秀吉の 5 歳下

1547 天文 16 年家康は織田家の人質となる

1550 天正 19 年家康は今川家の人質となる

1557 弘治 3 年築山殿（今川義元重臣関口氏娘）と結婚家康 16 歳 翌年長男信康誕生

1560 永禄 3 年桶狭間の戦い 家康は今川家から自立し織田家側につく

1561 永禄 4 年清州同盟 家康と信長が同盟を結ぶ

1567 永禄 9 年 26 歳従五位下三河守に任官 三河一国を固め家臣団の統制などのための権威付けに効果大

1568 永禄 11 年織田信長入京 家康は家臣団となる

1570 元亀元年家康 29 歳岡崎城から浜松城に移り本拠とする

1572 元亀 3 年家康 31 歳三方ヶ原合戦 家康三大危機 信長と家康連合軍が武田信玄（翌年死去）に敗れる

1575 天正 3 年長篠の戦い 信長と家康の連合軍が武田勝頼を破る

1579 天正 7 年家康が築山殿殺害長男信康切腹 信長の命は武田家への内通疑惑

1582 天正 10 年本能寺の変で織田信長自害 家康は織田一門の武将の立場にあり服部半蔵の支援を受け伊賀越えて岡崎城に帰還 家康三大危機の一つ

1584 天正 12 年小牧長久手の戦い 織田家跡目争いが元で次男信雄の要請により羽柴秀吉と対決 後和睦

1586 天正 14 年秀吉が実妹を家康の後添えにそして実母を人質に差し出す これを受け家康上洛 豊臣秀吉に拝謁 豊臣政権確立

1590 天正 18 年家康は秀吉の命で関東移封

1598 慶長 3 年秀吉死去 家康 57 歳

1600 慶長 5 年関ヶ原の戦い 家康の東軍が石田三成の西軍に勝利 三成は京都引き回し後処刑

1603 慶長 8 年家康 62 歳征夷大將軍となる（2年後徳川二代秀忠に譲る）

1611 慶長 16 年家康は二条城で家康上座、秀頼 19 歳下座で会見 秀頼の成長に脅威を感じたといわれる

1614 慶長 19 年豊臣菩提寺方広寺の鐘銘事件 家康は豊臣家に戦いの意図ありと判断 数か月後大阪冬の陣 秀頼は家康と一日の戦いで和睦 4 か月後夏の陣

1615 慶長 20 年大阪夏の陣 秀頼自害 豊臣家滅亡

1616 元和 2 年家康 75 歳病死 天海僧正が仕切り葬儀  
仮埋葬久能山 1 年後日光へ埋葬

### ■家康のプロフィール

- ・身長 159 cm だそうです。岡崎にある將軍家菩提寺である大樹寺に残された位牌から割り出した数値です。
- ・生薬に詳しく、健康に留意していたそうで、当時としては長寿だった理由がこれでした。
- ・誕生は 1542 天文 11 年 12 月 26 日、三寅（寅年、寅の日、寅の刻）に、岡崎城の生まれです。
- ・幼名は竹千代で、松平家では何代も前からの名乗りです。

### ■家康の数々の辞

- ・東照公御遺訓 「人の一生は重荷を負うて遠き道をゆくが如し、急ぐべからず不自由を常とおもへば不足なし」
- ・御遺言「臨終候はば御躰をば久能へ納め、御葬禮をば増上寺にて申し付け、御位牌をば三川之大樹寺に立て、一周忌も過候て以後日光山に小き堂をたて勸請し候へ」
- ・辞世の句「うれしやと二度（ふたたび）さめてひとねむり浮世の夢は暁の空」
- ・天下餅「織田がつき 羽柴がこねし天下餅 座りしままに食は徳川」

### ■日光東照宮

- ・家康の遺体が祀られているが、その理由は方角にある。最初に遺体が安置された久能山から見ると北西の方角が日光で、鬼門の位置にある。
- ・日光の陽明門からは南に江戸城が位置している。



### ■今川義元の末裔

- ・今川義元の代に東海地方最大の戦国大名となったが、桶狭間の戦い（1560 年）で敗れて衰退した。しかし、江戸時代には高家として残り、明治維新後も士族となっている。
- ・桶狭間で滅亡したようだが、明治まで家名を継ぐ長寿の家であった。

### ■本能寺 織田信長の人間五十年

- ・明智光秀の軍勢が包囲した本能寺は、現存の本能寺とは別の場所にあった。本能寺跡として、中京区元本能寺南町に石碑が建っている。
- ・幸若舞敦盛の一節の小唄「人間五十年、下天の内をくらぶれば、無幻の如く也」が信長の好みであった。本能寺の変の場面では、これを唄い死んでゆく姿がえがかれている。

### ■淀君の妹 初と江

- ・淀君は、近江の戦国大名浅井（あざい）長政の娘で、母は織田信長の妹の市である。本名は浅井茶々で、浅井三姉妹の長女である。
- ・次女の初は京極高次の正室、三女江（ごう）は徳川秀忠の正室である。とすると、織田家はずいぶん命脈を保ったことになる。

### ■石川数正 松本城の城主

- ・家康が今川義元の人質時代からの近侍で、小牧長久手の戦いで敵対した秀吉との和睦を提言した。信長の死後（1582 年）、台頭する秀吉と家康側の立場で交渉をしている。
- ・家康の重鎮であるにも関わらず石川数正は秀吉の下へ出奔した。理由は諸説ある。石川数正は家康側の軍事機密を把握していて、家康側には大痛手であった。
- ・秀吉の家臣として仕え、家康の関東移封後に石川数正は信濃松本に加増移封された。雄大な松本城を築城し城下の整備に尽くしている。

### ■本能寺 織田信長の人間五十年

- ・明智光秀の軍勢が包囲した本能寺は、現存の本能寺とは別の場所にあった。本能寺跡として、中京区元本能寺南町に石碑が建っている。
- ・幸若舞敦盛の一節の小唄「人間五十年、下天の内をくらぶれば、夢幻の如く也」が信長の好みであった。

15:30 終了

2 時間の講師のお話がアツという間に終わり、内容の濃い満足した懇話会でした。散会后、各々気の合った方同士でお茶しながらのアフターを楽しみました。